

## 令和元年度 第1回秋葉区教育ミーティング 会議録概要

開催日時	令和元年6月28日(金) 午後1時00分から午後2時30分まで
会場	秋葉区役所 6階 601・602会議室
出席者	秋葉区自治協議会委員 25名(欠席 5名) 教育委員：田中教育委員，渡邊委員 事務局：教育次長，教育総務課職員，地域教育推進課長補佐 学校支援課長補佐，学校人事課管理主事，施設課補佐 新津地区公民館長，新津図書館長 秋葉区教育支援センター所長 他 1名 秋葉区役所：夏目区長，小野副区長 傍聴者： 3名
議事	<b>1 開会</b> <b>2 教育委員挨拶(田中教育委員，渡邊教育委員)</b> <b>3 令和元年度教育委員会の施策について(教育次長)</b>
自治協委員	<b>4 意見交換(1)</b> まず、7ページのところに不登校対策ということで出ていますが、いじめ、不登校の初期対応と組織的な対応の充実を図ることなのですが、いじめは、いろいろと不登校の原因の一部にはなっていると思うのですが、いじめ以外の不登校の原因というのは、どういうものがあるのか、その辺、分析してあるところを教えてくださいと思います。
学校支援課 課長補佐	今のお話で、不登校ですけれども、当然いじめによる不登校もあります。そのほかに、やはり学力関係の不振だとか、もしくは友人関係のトラブルとか、または部活動の中での仲間関係とか、または家庭内でのさまざまな問題等もあります。一つが原因というわけではありませんので、複合的なこともありますし、また不登校になる前、それからなってから、これもまた多少内容が変わってくる場合もございます。または、今、ゲームとかそういうものが非常に流行っておりますので、子どもたちがそういうところから睡眠不足になったとか、そこに熱中したりとかというようところで、怠学的な傾向のものもあるということで、複数、複合的なものも原因があるというところでございます。よろしいでしょうか。
自治協委員	ある程度原因というのは、そのように複数に渡ってあるのだなど、単純に人間関係、学力不振というあたりだけではないということは何となく分かりましたが、学力不振関係はある程度手が打てるのかなという感じがしますが、そのほかのものに関しては、特に家庭がかかわったり、友人関係、子どもたちの間同士の関係ということになると、その辺、学校の先生にすべて責

<p>自治協委員</p>	<p>任といたしますか、監督を強化というあたりではなかなか難しいところがあるのかなと思いますが、その辺、学校の先生方にだけしわ寄せがいかないようにしていただければと思います。</p> <p>今、ちょうどいじめのことで出たので、そこでもう一つお聞きしたいのですけれども、6ページのいじめを発見した場合の、3の具体的な支援の決定と役割分担で、生徒指導というものがありますけれども、具体的には生徒指導というのはどのようなことを行うのでしょうか。</p>
<p>学校支援課 課長補佐</p>	<p>生徒指導というのは、非常に広いですね。当然、これは、いじめや不登校の問題がありますし、非行の問題がありますし、今の現代的な課題としては、SNSだとかというものもあります。それから、友達との喧嘩、トラブルというものもあります。そういうものを全般的に今生徒指導と言っておりますけれども、その解決に向けて、特にこのいじめのところで図が出ていますけれども、いろいろな非行の場合についても、いじめ以外の問題についても、当然複数の職員で対応して、そして聞き取りをしたり、そしてまたアンケートでもいじめ以外のものが出てきますので、そこへの対応も行っているということです。</p> <p>学校内で解決できるものもあれば、または外部の機関や専門のスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、新潟で独自にやっておりますスーパーサポートチームというような、生徒指導にかかわる対応を外部の我々教育委員会から派遣したりということで、組織的な対応も行っていると。これも、一つの生徒指導というところになります。</p>
<p>自治協委員</p>	<p>今、話の中で生徒指導と言われても、私、よく理解できないのですよ。お前、こういうことをやってはだめだよ。はい、分かりました。ではやりませんなどというような、素直な生徒だったら、最初からいじめはしないと思うのですよね。具体的にやってしまって、しかも地下に潜ってしまっているか、隠れたりということになるものですから、具体的にそのようにいじめているような生徒に対しては、その指導というのはどのようなことを行うのでしょうか。</p>
<p>学校支援課 課長補佐</p>	<p>いじめに関しましては、被害者もいますし、加害者もいますし、傍聴している子どもたちもいます。そういう子どもたちに、まず、特に当然被害者を守ると、いじめられたほうを確実に守ると、安心させるということがまず第一です。それから加害についても、その行為に及んだ意図というものが必ずあるはずなのです。その行動理由、こういうものをしっかりと聞くということ。ですから、生徒指導では、まず事実をしっかりと確認することと、もう一</p>

	<p>つは、やはり情動、被害にも加害にも、もしくは周りで見ていた子どもに関しても、心の部分のところもしっかりと聞き取って、そして被害については安心して学校に来られるように、加害については自分に対して内省を図って、そして次に自分がやるべきことは何なのかということをしかりと考えてもらう。周りで見ている子どもたちについても、ただ見ているだけでは同じようないじめなのだということを理解していくような指導を行うこととなります。</p>
自治協委員	<p>すみません。その最後の指導のところ、結局被害者、加害者というわけですから、その加害者、与えている子に対するペナルティとか、そういうものはあるのですか。</p>
学校支援課 課長補佐	<p>ペナルティというのは、具体的な何かペナルティでしょうか。当然、自分がやったことを振り返って、相手に対してしっかりと謝罪をするのも当然そうですし、そしてそれを言葉で、文章で表して、自分で反省文を書くようなことも、当然時にはあります。ですから、ペナルティとして何かを加えるというようなことは、学校としては強くはやっておりません。</p>
司会	<p>内省を図るということですね。</p>
自治協委員	<p>長々とすみません。例えば、やった子に対しては、お前、少し出席停止とか、これも一つのペナルティかと思うのですけれども。</p>
学校支援課 課長補佐	<p>出席停止につきましては、教育委員会が行うことになっております。出席停止についても、きちんとした基準や項目がありまして、ただ単にいじめを一回、二回やったことによって、あなたは出席停止ですというようなことはナンセンスですよ。ですから、繰り返し繰り返し、指導も聞かずに行うような、または周りの子にも継続して危害を加えたり、命にかかわるようなことになった場合には、やはり検討の余地があるというところでもあります。</p>
自治協委員	<p>1点、確認と提案なのですが、今のいじめの問題については、この前、昨日でしたか、何とか宮さんという方が、先生、何とかありませんかという作文を書いて発信しているわけですが、それを受け止める感度が非常に鈍いと、私は全体的にそう思っているのです。感度が鈍いということは、問題意識がないのではないかと。たとえそれが対策を打ったとしても、生ぬるいというのが現状ではないかと思うのです。</p> <p>そこで、13 ページに、先生の多忙化の解消というものがあります。そこで、放課後は諸会議を設けずに、部活動や学級の指導、子どもと向き合う時</p>

	<p>間に充てると。非常にいいことなのですが、私は学校の先生ではないので、学校の先生の業務が具体的にどうかということは分かりませんので余計なことは言いませんが、この業務の改善というのは、定型業務と非定型業務というものがあると思うのですよ。定型業務に対して時間を削減する方法、改善策というものは、実際の教員の皆さんで、あるいは学校の中でやられているのかどうか。非定型業務というのは、例えば会議とか、部活動とか、そういうものがあるかと思うのですが、定型業務というのは、一貫して子どもの教育の、勉学の学力の向上のために、いろいろと知恵を出して子どもたちを教育していただいているわけですが、その定型業務の中での削減する方法はないのか。私は、諸会議を設けずと書いてありますけれども、やはり学校の先生の情報の共有化という意味では、やはり週に一回か2週間に一回か、1か月に一回か、絶対必要だと思うのです。従って、この状態の中で部活の指導とか子どもと向き合う時間に充てるといえるようには到底思えないのですけれども、その辺の認識をお聞かせいただきたいということです。</p>
<p>学校人事課 管理主事</p>	<p>今ほどの委員の提案、大变的確に的を得ているところかなと思います。ご発言の中に、放課後の諸会議等、必要に応じてやるべきことはやるということと思いました。それでよろしかったでしょうか。部活動や学級の業務など、その辺のところをどのように学校として削減をしたり、そこに力を入れて取り組んでいるかということが、この13ページの業務改善の推進のところでははっきりと分からない、分かりにくいというご意見ということでよろしいですね。</p> <p>それを受けて、諸会議を設けず、子どもと向き合って子どもの教育相談、子どもとかかわる時間を増やすという取り組みをしている学校もあります。会議の設定期日を、先ほどご意見があったように、週に一回のものを2週に一回とかに詰めて、情報の共有等は必要なもので、それをどのように効率的にやるかというようにして取り組んでいる学校もあります。その学校ごとの取り組み方、いろいろな取り組みがあります。13ページの下の枠のところには一校一取り組みの効果ということで、各学校からとりましたアンケートの結果があります。それぞれの学校が形を変えて自分の学校の児童生徒がそことかかわる時間をつくり出すためにいろいろな取り組みをした様子が書いてありますが、それぞれ効果を上げているということが書かれております。</p> <p>回答があちらこちらにいつて大変申し訳ないのですが、委員の提案されている部分につきまして的確な答えになっていないかもしれませんが、学校独自でそれぞれの対応をしているというところではあります。</p>
<p>自治協委員</p>	<p>ありがとうございました。いずれにしても、これ以上質問はしませんが、業務改善というのは、学校の先生だけではなくて、ほかの業種全</p>

	<p>部にかかわってくるわけです。その中で、これはどうしてもやらなければいけない、定型業務の中でどうしてもやらなければいけないという価値分析、ABC分析をやった状態での分析というものが必要だと。そうすれば、もう少し子どもたちと向き合う時間も当てはまるのではないかというのが私の願いですので、回答は回答としていただきましたけれども、以上で終わります。ありがとうございました。</p>
自治協委員	<p>7ページの不登校の問題に関連してですけれども、確かご説明のところでも、いろいろな取り組みにもかかわらず、不登校児童、生徒が増えているというお話だったと思うのですけれども、それは確かですか。</p>
学校支援課 課長補佐	<p>不登校の数ですか。</p>
自治協委員	<p>はい。</p>
学校支援課 課長補佐	<p>不登校の数は、少しずつ多くなっています。</p>
自治協委員	<p>そこが問題だと思うのですけれども、これは、地域間というか、区ごとでも違うと思うのだけれども、その辺はどのようなのですか。今言われたのは、秋葉区のことですか。</p>
学校支援課 課長補佐	<p>いえ、全体的にそうです。</p>
自治協委員	<p>全体的に、8区万遍なく増えているということですか。</p>
学校支援課 課長補佐	<p>そうですね。はい。大きな差はありません。</p>
自治協委員	<p>そうですか。そうすると、いろいろな努力をされていらっしゃるのだけれども、それにもかかわらず不登校が増えているとおっしゃっていますけれども、その原因というのは何でしょうか。子どもたちの数は減っているのですよね。逆比例して増えていると。比例と言うのはおかしいのでしょうか。その原因は、どうお考えでしょうか。</p>
学校支援課	<p>これというものは言えないのですけれども、やはり子どもたち自身の人間</p>

課長補佐	<p>関係をつくるコミュニケーション能力が少し弱くなっているのかなということが感じられます。特に、自分の話はするのですけれども、相手の話を聞き入れなかったりとか、もしくは自分から進んで主体的に話すようなことが苦手だったりとか、やはりそういうところを学校教育の教育課程の中でそういう場面を意図的につくって、そして子ども同士のふれあいや、そして先ほどもありましたように、支持的風土をもつような学校づくりというものを目指す必要があると思います。</p> <p>先ほども言いましたように、非常に内容が複数に渡っての原因にもなっておりますので、まずは初期的な対応、早く発見する、そして子どものその気持ちを早く汲み取る、悩みを汲み取るというところに力を入れています。</p>
自治協委員	<p>教育の基本のところの問題が生じていると思いますので、頑張ってください。</p>
自治協委員	<p>今、不登校のことが話題になっているのですが、その不登校の原因はさまざまあって、人間関係とか、学力とか、部活の問題とか、身近に学力がなかなか、小学校まではゆるゆるときたのでしょうけれども、その積み重ねで中学になるとすごく難しくなると。そして段々分からなくなって行って、授業が面白くない。そういうところからただいだけになって不登校につながるというものも先ほどお話がありましたけれども、そういう子どもたちに、地域でも無料塾とかそういうものもあちらこちらでありますけれども、学校の中でそういう学力の低下しているお子さんに対してどういう対処をしていらっしゃるか。なかなか今、経済的にも大変で、家庭が大変で、塾にやるには費用がだいぶかかると。では、学校でそういうお子さんたちに、具体的にどのような対策をとっていらっしゃるか、少しお聞かせいただけますか。</p>
司会	<p>不登校児童の対応ということですか。</p>
自治教員	<p>学力低下に対する。お願いします。</p>
学校支援課 課長補佐	<p>ありがとうございます。まず、学力についてですけれども、これは、今ご指摘のとおり、小学校と中学校の連携が非常に大事だと私どもは思っています。小学校6年間で積み重ねがあって、そして学級担任がすべてを教えるというところから、中学校に入りますと今度は教科担任制になります。そういうところの接続といいますか、その部分を小中連携でしっかりと中学1年生の入学のときに、教科制になりますので、その辺の学習の進め方とか、手引きとか、そういうものをしっかりと周知していくということも大事だと思います。</p>

	<p>それから、学習授業自体に関しましては、チームティーチングをやったり、もしくは放課後のアフタースクールとか、または学生による学習支援ボランティアとか、そういう方々から放課後や授業中に入ってもらって学習をするような取り組みも行っております。よろしいでしょうか。</p>
自治教員	<p>秋葉区でも、実際にそういうことは。</p>
学校支援課 課長補佐	<p>学校からの要請があれば、学習支援ボランティアも派遣いたしますし、アフタースクールも派遣という形をとらせていただいて、教員免許を持った方が放課後教えるという機会も、そういう授業も行っております。</p>
自治協委員	<p>私からは、情報提供とご提案です。</p> <p>今、不登校について問題が出ていましたが、そもそも登校しないことが問題なのかということなのですけれども、本来は学習機会が保証されることが問題ということだと思います。その場合に、現場の先生方とお子さんから、現場の教育方法としてスタンダードが取り入れられることによって苦しくなっているというような声を聞くことがあります。特別支援にあたっては、それぞれの子どもに対応した個別の最適性というものが今求められているとされている時代において、例えばですが、長野県では、通信制の中学校の取り組みも始まっておりますし、あるいは先生方が問題に対応するのに、問題がさまざまに関連し過ぎて、複合的過ぎて大変になっているところだと思いますと、三条市ではスクールソーシャルワーカーの導入ということが取り入れられておりますので、そもそも先生方が抱え込まずに、学校を開いていくような取り組みということを、子どもたちの学習保証というところでさらに考えて一緒に取り組んでいけたらと思っております。</p>
司 会	<p>貴重なご意見をありがとうございました。</p>
自治協委員	<p>私、実は塾をずっとやっています、もう何年か前にやめましたけれども、その経験から申しますと、学力不振、これに関してなのですが、皆さん、いろいろな話をしているのですけれども、ていねいに1対1でしっかり教えると頭がよくなると思っているところにまず一番大きな間違いがあると私は思います。私の経験から言うと、私は小学校の生徒から預かっていましたが、小学校のときは基本的に個別です。そして、まずは読み書きそろばん、読めない子ども、それから計算ができない子どもが非常に多いのです。そのベースがない子どもさんにどれほどていねいに教えても、学力は上がらないのです。本当に1対1で教えてもだめなのです。ちなみに私は、中学の生徒は、1クラス50人いたのです。成績は、英語のクラスでは、一番下の生徒が、学校の点数が大体90点くらいです。何を学習させたかと言うと、徹底</p>

的に音読です。周りに外国人がいませんので、まず言えない子どもが何をやってもだめなのです。ですから、最低限教科書は暗唱、数学は徹底的にかなり難しいところまで計算がすらすらとできるまでを指導しました。それがあって初めて次の段階にすっといくのです。私は、学校の先生は一生懸命教えているのは分かるのですが、何しろできる生徒もできない生徒も、できる、できないではなくて、ベースができていない生徒もベースがきちんとある生徒も一緒に考えるところに間違いがあると思います。ですから、せひその辺のところ、ベースづくりということをしっかりと意識されたいのではないかなと思います。

司 会

ありがとうございました。どの子ども基礎学力の充実ということと、それからいろいろな子どもたちをサポートできる支援体制、この二つが非常に大事ななと感じました。

秋葉区のアンケートの2番目が不登校、いじめだったので、今日はとてもいい議論ができたと思います。ありがとうございました。

## 5 保護者・地域・学校の連携について（地域教育推進課長補佐）

## 6 意見交換（2）

自治協委員  
（地域教育  
コーディネ  
ーター）

新津第三小学校は、平成23年度から始まりまして、今年度で9年目を迎えました。私は、活動当初からかかわっていますので本当に9年目なのですが、それぞれの学校すべて配属になっているのですが、地域住民、学校の規模とかいろいろな問題がありまして、やっていることが、その特色を活かしたり地域の方々の参加を得ながらパートナーシップ事業が行われています。

今回、私は、新津第三小学校でやっている活動を少し報告したいと思うのですが、活動当初から始まりました読み聞かせの「ぼけっと」というグループがあります。毎週水曜日朝の朝学習の時間に各学年、今週は5年生、来週は6年生という形で、1学年ずつ1年を通して行っております。大体10分から15分の読み聞かせでして、そのときは小学生のお子さんをもった保護者の方が多かったのですが、今はほとんど皆さん卒業されて、地域住民として参加されています。一昨日もあったのですが、春の読書週間、秋の読書週間と、夏休みが終わる前に計3回イベントを行っていただきます。それは、朝の読書以外の形で、少し遊びも交えた昼休みの体験として読み聞かせて、お土産は本当に簡単なものを皆さんが作ってくれるのですが、折り紙で折ったその本の中に出てくるカブトムシであったりとか、今回は和菓子がテーマでしたので、三色だんごを作ってください、それを子どもたちが帰るときに渡すという、そういうイベントをやっています。



その「ぼけっと」の課題として、昨年度までは朝学習の時間帯だったのですが、今年度から時定が変わりまして、朝学習の時間がなくなったのです。でも、どうしてもその「p @おけっと」の活動は、ここまでやってきたのでやめたくないということもありまして、先生方と話し合いまして、1時間の授業のうちの15分間を使わせてもらっています。ですので、その15分間は国語の時間として与えられていて、あとの時間は先生方の調整で1時間45分の分の15分間を使わせてもらって、残った30分とどこかをつけて国語の1時間にするという形です。ですので、それが来年度はどのようになるかということが課題でして、時間調整がとにかく難しくなってきました。ほかの学校では、昼休みになどいろいろとあるのですが、うちの最初の「ぼけっと」は、朝なら来られるという人がほとんどなのです。働いていらっしゃる方ばかりなので。ですので、それに関して昼休みに動かすのは難しいかなと思っています。

成果としまして、子どもたちが朝登校して急いで来るのですが、今日は「ぼけっと」の読み聞かせだから早く行くのだという声が聞かれるのです。中には、新聞にも載ったのですが、日報に「私の夢」がありますよね。その欄に、私は将来「ぼけっと」のような読み聞かせをしたいと言ってくれる子もいまして、それがボランティアの「ぼけっと」の方たちは大喜びで、両方も喜んで、子どもたちも嬉しいことだし、ボランティアもとても喜んでいたということでした。

それから、学びの拠点づくりとして、昨年度まで新津地区公民館と協働で「手仕事サロン」と「健康吹き矢」ということをやりました。今年度からは公民館は離れて、独自でやっているのですけれども、「健康吹き矢」に関しては、人数が多いものですから、1年生のみの体験をさせてもらいました。みんな初めてのことなので、1年生は昼休みにすごく喜んで吹き矢をやっていました。「手仕事サロン」としては、図書館に飾る折り紙を作ってもらったりとか、当初はいろいろな講師を公民館で呼んでくれていろいろなことをやったのですが、今は独立していますので、皆さんで考えながら活動してもらっています。

両方の受講者を合せて文化祭で地域の広場という場を設けてもらいました。昨年度の文化祭では、割りばし鉄砲とか、輪投げとか、ブーメランという形で、子どもたちが文化祭のときに遊べる場をやっていただきました。ただ、何しろ予算があまり使えないということで、パートナーシップ事業からも出せないものですから、皆さんが独自に出したのです。ですので、そういった面であまり高価なものは作れないし、そこがやはり問題かなと思っています。

皆さんからは、最初は学校に対しての敷居が高かったところが、今はとても来やすくなりましたという意見もありましたし、どんどん輪が広がって

	<p>ればと思うのですが、なかなか現役で働いていらっしゃる方もいらっしゃいますし、元気な方は、そういった場ではなくて自分の行きたいスポーツクラブとか旅行とかに出掛けているので、あまり人数が増えないということが課題です。</p>
<p>司会</p>	<p>ありがとうございました。たくさん成果と課題を出していただきましたけれども、成果と課題、それから聞いてみたいこと、お聞きしたいこと、どこからでも、いかがでしょうか。</p>
<p>自治協委員</p>	<p>私の体験とといいますか、現在行っていることと併せて話をしてみたいのですけれども、保護者と地域、学校の連携ということで話がありますけれども、実は私は今朗読サークルをやっておりまして、小学校に朝読書の時間に私どものサークル会員が行きまして、朝の読書をするということを8年くらい続けております。私ども、ボランティアサークルとして社会福祉協議会に登録もしております、いろいろなところで朗読をしておりますけれども、この仲介とといいますか、仲介をやっていただいているのが地域の教育コーディネーターの方々でありました。長年続けてまいりましたが、すっかり子どもたちと仲良くなりまして、その子どもさんの成長に合わせて我々も読書を楽しむ、朗読を楽しむということを実践するような形で、大変サークルとしても喜んでいるのですけれども、統廃合でなくなりましたが、満日小学校というところが昨年廃校になりましたけれども、そちらでは地域の方々がこの朝読書に参加されておまして、私たちと一緒に、学年がそれぞれ分かれておりましたけれども、朗読をされておりました。その方々ともいろいろな話を通じて交流をさせていただいたりいたしました。</p> <p>そこで、私からの提案は、秋葉区の中にはかなりいろいろなサークルがございます。従って、そういうボランティア活動もやれるようなサークルの方々の力を学校で行っていったらいいのではないかという感じがいたしております。今、私どもは、新潟市の中心部にはかなり朗読サークルの数がありますけれども、この秋葉区の中では朗読のサークルの方々はあまり聞いていないので、はっきり分かりませんが、いずれにいたしましてもそういう形で貢献ができるのではないかという感じがいたしますので、少し意見を申し上げた次第でございます。ありがとうございました。</p>
<p>司会</p>	<p>ありがとうございました。ボランティアサークルとの連携という提案をいただきました。また公民館と連携事業にもかかわるものかなと思います。</p> <p>ほかにはいかがでしょうか。先ほど、前半の教育委員会の方針も出ていた中で、コミュニティ・スクールなども出ていたのですけれども、その辺りもいかがでしょうか。</p>

自治協委員

今ほど来、課題と市政、成果と課題というように言われまして、どうこの議論に加わらせてもらったらいいか迷っています。と言いますのは、私も新関コミュニティ協議会では、ごく自然的に、日常的に、当たり前のように、日々学校との連携をさせてもらっております。私、コミュニティ協議会の役員になって3年目なのですが、これほど日々学校とのかかわりがあるのかと、最初、個人的にはびっくりしました。これほどかかわり方と言うとあれですけども、どのようにやるべきかと個人的に模索していたのですけれども、今はもう、先ほど申し上げたように当たり前、このアンケート結果にありますように、地域も学校も、まさにこのパートナーシップですか、連携がなくてはならないとしています。と言いますのは、地域が世帯数で500弱です。生徒が、新関小学校が65名の生徒数ですから、地域が子どもさんを守っていかないと、あるいは一緒になってやっていかないと、学校の運営に対しておこがましいのでありますけれども、お手伝いしていかないと難しいのではないかと考えています。従って、地域の皆さんは、地域の子もは地域が育てるのだと。一人減っても困るので、減らないように大事に育てていこうと、日々そのようなことをお互いに、実際いろいろな面で参加させてもらっておりますから、その中で感じております。従って、課題となると何かと個人的に思っております、確かに今日のミーティングの中でいろいろなお話がございまして、教育的専門分野の話に私ども地域の者がどのようにかかわるか。素人が先生方にああだこうだとはとてもおこがましくて言えないし、素人なりに受け止めてかかわっていけばいいのかと。先ほどからずっと自分自身でない頭を模索しながら聞いていた次第ですけども、その中で、いずれにしても、今、私ども地域としても子どもさんから、学校から元気をもらっていると。まさにここに書いてあるような実態でございまして、その課題を、今議論を聞きながら模索したいと思っております。どう課題を見つければいいのかと思っ、引き続き皆さんの議論をお聞きしながら受けとめてまいりたいと思っております。

自治協委員

ただいま委員から、新関地域の教育力の高さというのをご紹介いただいたと思ったので、素晴らしいご発言だと思って聞いていたのですけれども、教育委員会の皆様の取り組みも、ある程度の結果から見ますと大変大きな成果を挙げているということで、素晴らしい取り組みをされているなと思っております。

私、大学の教員をしているのですが、やはり今の大学生を見ても、先ほどから何度も出てきます自己肯定感、それが低いのですね。本当にいろいろなところでネックになっていまして、不登校にもつながっているのだと思いますし、いじめにもつながっているのだと思いますし、それを何とか

解決しなければならないというのは、地域の共通の課題ではないかと考えています。

このパートナーシップ事業なのですから、拝見していますと、どちらかという学校の取り組みに対して地域が参画すると、そういう形のものがほとんどを占めているのです。私、こういった取り組みの本丸というのは、地域全体の教育力をいかに上げるかというところにあると感じていて、それは、学校はこれだけ努力しているのだから、地域は地域できちんと頑張ってくれよと言われるのが筋なのではないかと思ってしまうのですけれども、本当に地域というか、自己肯定感などというものは、本来、子どもが普段日常的に何気なく過ごしていく中で育まれるべきものであって、地域の中の行事であるとか、周りの大人たちに見守られる中で育まれるべきものなのではないかと思うのです。

地域が変容していくということ、逆に学校にお願いするのはいかなるものかと思うのですけれども、学校の側の取り組みから何かそういうものを変えていくヒントはないものかと、逆に教えていただきたいのです。地域はどのようにすれば変わることができるのかということなのですが、何かありましたら教えてください。

地域教育推進課課長補佐

ありがとうございます。ここまでの意見や考え、今の質問を聞いていて、非常にありがたく思いました。ありがたく思ったのは、当課の地域教育推進課だけではなく、こちら側の委員会事務局がありがたいと感じたと思います。

今ほどの意見、地域全体の教育力の上げ方についてですけれども、このパートナーシップ事業そのものは、確かにおっしゃるように、今の金子委員がおっしゃるように、学校の教育課程の中に地域の力を取り込むということでスタートしました。平成 19 年です。そのとき、国の施策は、国は平成 20 年からのスタートだったのです。学校支援地域本部事業といって、学校の課題はすべて学校だけでは解決できないと、地域の力を借りなければとても解決できるものではないというところからこの事業がスタートいたしました。ただ、国は、平成 28 年にはすでにこの学校支援地域本部事業から地域学校協働活動推進事業というものになってきました。何かと言いますと、学校が地域から助けをもらうだけではなく、学校が地域に出て行き地域に貢献する活動も取り入れましょうという、こういう方針に変わってきたのです。ところがパートナーシップ事業は、もうすでに平成 19 年からその方向で取り組んでいたのです。ですから、このパートナーシップ事業をさらに推進していく。つまり、私が先ほど申し上げた中に地域の課題や 20 年後の地域を見据えて話し合うなどということをし少し申し上げましたが、あれこそが地域の教育力を高めていくという視点で学校や保護者や地域の皆さんと一緒に話し合う

場であると私自身は考えているところです。

これでお答えになるかどうか分かりませんが、先ほど荒井委員や松田委員が、学校にもっと入れていただけるとありがたいというお話もありました。松田委員からは、日常的に学校と連携しているというお話がございました。非常にありがたいことで、子どもたちにとって、地域の皆さんと顔見知りになるということは、例えばくだらない話ですみません。スーパーに行ったときに、学校のパートナーシップ事業で知り合いになった地域の方と会ったと場合、その場で会話が成立します。子どもと地域の方の対話に、当然買物に行っている親もいるわけです。子どもを守るネットワークがそこで作られるのです。こういった効果というのは、ものすごく大きく意味があると思っています。それこそ地域の教育力に大きくかかわってくるのではないかと思います。ながら伺っておりました。貴重な意見、ありがとうございます。

司会

今ほど子どもを守るネットワークという話がありました。いかがでしょうか。

自治協委員

どうしようかなと思いがらいたのですが、委員のご意見も聞いたので、少し報告させていただきます。

子ども食堂を立ち上げて、相変わらず試行錯誤で形を変えながら、今、こうやってここにぶつかったからここを修正して今こういう感じでいっているのですが、実は、明日初めて夕食に取り組みます。メニューは、相変わらずカレーライスと福神漬けと麦茶と、あればデザートしかないのですけれども、やる度にいろいろな発見がありまして、今日はここでの発表は控えておきますが、いつか大きな声で発表したいこともあるくらいにいろいろなことがあります。

その中で、前回から、もしかしてと思って中学校のコーディネーターにお願いして、第二中学校の方にボランティアをお願いできないかとお話ししてみたら、あのときは6人か来てくれたのです。そうしたら、ここにも書いてありますが、調理をしている調理班のお姉さまたちが喜びまして、とてもいい、楽しく作業をすることができました。明日、またあります。できれば来月もやりたいので、希望があったら半分にして下さいとお願いしたのですけれども、何と7人の方が来てくれるということで、こちらから学校に行くのもいいのですけれども、中学生がコミュニティに来てくれるということもとてもいいなと思いました。

明日ふたを開けて見ないと分からないのですが、心配しているのは帰りの時間なのです。無事に帰宅して、うちは地域が広いものですから、不審者でもいたら困るなと思って、とりあえず両校の見守りの方たちに声掛けしまして、できればカレーを食べて、その辺をふらふらして、子どもたちに早く帰

れよと声をかけていただきたいと、何となく地域を巻き込んだ事業になりつつあるかなと思っているところです。ほかのコミュニティ協議会のいろいろなことをやっていると思うので、また情報交換して、地域の交流を図っていききたいと思います。

自治協委員

今、委員からも話があったし、新聞からお話があったように、学校の教育と子どもの教育と言うのですか、地域でどのようなかわりがあるかということ少し考えてみますと、私たち満日地区では、自然的にどんどん焼きとか花植えとか、それから芋掘り、それから祭り、御神輿ですね、そのようなところで子どもたちが参加してきます。これは何故かと言うと、特に、ここでは教育ということは一切考えてはいません。これは自然的に、昔から故郷の良さということをお教えるということ、これがやはり教育かなと、代々自然に伝わってきているのです。ただ、それが、今まちの方ではどうか分かりませんが、私たちは、学校の教育と地域という、やはりその辺のところどこか教育にかかわっているのかなと感じます。そこで地域の子どもたちとふれあうこともできますし、そして最近、子どもたちは積極的に大人に向けてあいさつします。これは、やはり学校の教育がいいのかどうか分かりませんが、そのようなことが感じられます。

そして、この辺の地域では、すごく子どもたちを大切にしています。今、スクールバスで学校に行っていますけれども、やはり常にあいさつ運動みたいなことをやっているわけではないのですけれども、子どもたちからもあいさつがあったり、大人からも元気でやっているかというような、このようなことをやっておりまして、このような活動、これがやはり子どもたちを教育しているのではないのかなと、間接的にですが、そのように感じております。

これからもこのようなことを続けていくしかないのですけれども、ただ、先ほど言ったどどん焼きとかイモ植えとか花植えとか、やはり学校の先生は一度も来たことはありません。そういう中に、一度学校の先生がもし、先ほど言ったように先生方も大変忙しいですからなかなか難しいのですけれども、少し顔を出していただければ、地域の人と学校の先生との交流というものもできるのかなと考えております。

司会

では、お時間がまいりました。今日の話し合いの中で、地域全体の教育力を高めるというお話も出てきましたが、アンケートをこの前取らせていただいたときに、そのアンケートの記述の中で地域の子は地域で守る、地域全体の子どもたちを見守る力を高めたいというような話もあったのです。それらも含めて、ぜひ今日出てきた課題をもう一度我々第3部会で揉みながら、第2回のミーティングでは、秋葉区における各学校の取り組みや成果などを報

告させていただきまして、さらにこれらの中から話題を絞って議論を深めていきたいと思っております。

## 7 教育委員感想（田中教育委員、渡邊教育委員）

田中  
教育委員

本日は、本当に貴重なお話をたくさん聞かせていただきましてありがとうございます。前段の今年度の市の対策につきましては、特にいじめ、不登校についての皆さんのご質問であり、あるいはさまざまな具体的な提言、そしてご意見、私どもが新潟市全体のいじめ、不登校を考えていく際の参考にしてまいりたいと考えております。ありがとうございます。

そして後半につきましては、保護者、地域、学校の連携ということで、具体的なそれぞれの地域での取り組みを聞かせていただきました。「ぼけっと」のお話、実は新潟市では毎年地域と学校パートナーシップ事業報告書というものを作っております、この中にも載っております。先ほど見せていただきましたが、本当に素晴らしい取り組みだなど、このように思っております。

実は、私、皆さんにぜひ紹介したいことがあるのです。実は、この地域と学校、子どもとの連携ということに非常に深くかかわっているのですが、毎年日本全国では、学力・学習状況調査というものを4月に行っております。国語と算数、あるいは年によっては理科の問題が増えたりするのですが、その後ろのほうに子どもたちに「児童・生徒質問紙」といっていろいろな質問をする部分があるのです。その中に、こういう項目があります。今住んでいる地域の行事に参加していますか、こういう質問があります。これに対しては、秋葉区は、新潟市ではなくて秋葉区ですよ。秋葉区の小学生も中学生も、ダントツなのです。新潟市トップ。そして、全国の数値から見てもものすごく上回っているのです。小学校で 17.8 ポイント、中学校で 21 ポイントも上回っています。さらに、中学生では、これは驚きました。中学生でこういう質問があるのです。地域や社会で起っている問題や出来事に関心がありますかと。地域や社会の問題に関心がありますかと。これが、全国を新潟市が大きく上回っています。さらに、地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますかと。これも上回っています。実は、この二つの問題、地域や社会に関心があるか、それから何かよくするためにどうしたらいいか考えることがありますかと、これについては全国的にも中学生が下がってしまうのです。小学生よりも中学生が下がるのです。実は、この問題は、3年前の新潟県の教員採用試験の問題にも出されました。こういう実態があるのだけれども、これから教員を目指すあなたたちはどう考えますかというような問題になったのです。これほど大きな問題が、この秋葉区では小学生よりも中学生が高いのです。これは、私は驚きました。全国的にこういうものはまずほとんどないのではないのでしょうか。一体何がその原因かと

いうことを考えますと、やはり地域の方が子どもたちを日頃から見守り、育み、一生懸命褒めたりやる気にさせたりしてくれている。この秋葉区のあきはくはつものがたりですか、自治協議会かわら版を読ませていただきましたけれども、この中にも子どもたちをととても大切にしようとするこの秋葉区の皆さんの心が伝わってまいりました。区民主導サポート宣言というものもやられたそうですね。平成 28 に。本当に秋葉区全体が一体となって子どもたちのために、地域のために頑張ろうではないかと、こういう意気込みが伝わってきました。それが、この小学生、中学生につながっているのだなと思っております。

これから益々秋葉区の子どもたちが地域の方々から見守られながら、より一層逞しくなっていくことを期待しております。本日は、本当にありがとうございました。

渡邊  
教育委員

本日は、皆さん、ありがとうございました。たくさんのご質問やご意見で、皆さんのお考えをたくさん聞くことができたと思っています。前半の話し合いの中で特に教育委員に持ち帰りたいと思ったことですが、不登校という問題で、不登校になっている本人がどのように困っているかというところに視点を当てることが大事で、不登校を学校に来させるようにすることが第一の目的ではないということは、みんなよく認識してやっているのですが、表現の仕方によりそうではないように伝わることはありますし、不登校のお子さんやそのご家族にとって責めるような形になることがあるので、そういったことに配慮しながら、また議論していけるとよいと感じました。そして、いずれにしても学力のお話が出ていましたが、学校以外の学ぶ場や学ぶ機会の提供というのは一番大切なことであり、渡邊委員からもお話がありましたが、それはこれからもぜひ考えていかななくてはいけないところかと思いました。地域で無料の塾があるというお話や、大きな組織としてやってはいないけれども、いろいろな形で子どもの支援をしていらっしゃるところが、たくさんではないのかもしれませんが、あるのではないかと思います。そういったところにも改めてアンテナを張りたいというのが私の今日感じたところであり、また持ち帰って皆さんにシェアさせていただきたいところと考えました。

また、後半のお話については、今田中委員から数字の面でもいろいろな結果がすでに出ているというお話があつてなるほどと思いましたが、本当にまだ時間があれば、具体的な取り組みやお話が次々出てくるような感じで、たくさん、それから長い歴史のある実践がたくさんあるのかなと感じました。そして、例えば学校の中でも朗読ボランティアのような取り組みを継続していくときには、学校のシステムとの間で時間的にうまくいかなかったりといった、そういった課題も出てくるのですが、そこをまた調整して連携し



てやっぴらっしやるといふことを学ばせていただきました。また、皆さんそれぞれがいろいろな専門性でしたり、職業的な専門性でしたり、職業的なものではなくてもいろいろな知識やこれまでの蓄積をお持ちの方が集まっぴらっしやり、そういった中で教育の専門家ではないというお話がありました。が、逆にいろいろな方が集まっぴらっしやることがそれぞれに考える刺激になっぴらっしやり大切なことではないかなと、このようなことを感じました。

まとまりのない感想になりましたが、次回もどうぞよろしくお願ひいたします。本日は、ありがとうございました。

## 8 閉会

ありがとうございました。以上をもちまして、秋葉区教育ミーティングを閉会いたします。皆様、長時間にわたりありがとうございました。

司会